

くすのき だより

心ではぐくむ健康と笑顔の樹

VOL.
41

2025年
3月発刊



撮影場所／立山町室堂平 みくりが池(写真／済生会富山病院職員)

済生会富山病院・ 健康管理センター

トピックス

- 診療科紹介：整形外科
- 第45回全国済生会親善ソフトボール大会
- 日本政策投資銀行「DBJ BCM格付」を取得
- 第2回「フードパントリー（食品配布会）」を開催
- 生活困窮者支援に関する検討会
- 更生保護施設富山養得園インフルエンザ予防接種事業
- 世界脳卒中デー2024イベント
- 世界糖尿病デー2024イベント
- 学生指導に関して
- 新任自己紹介
- 無料低額診療事業について
- 理念・基本方針
- ご寄付のお礼



社会福祉法人 済生会支部
富山県済生会

富山県済生会富山病院
<http://www.saiseikai-toyama.jp/> hospital@saiseikai-toyama.jp

〒931-8533 富山市楠木33番地1
TEL 076(437)1111 FAX 076(437)1122
医療福祉支援センター
TEL 076(437)1120 FAX 076(437)1131



済生会富山病院・健康管理センター

済生会富山病院・健康管理センター長 堀江幸男

少子高齢化社会の到来にともない人口減少は現実のものとなっております。特に働き手不足と要介護者の増加は深刻な問題です。国が主導する「国民健康づくり運動」は1987年度から始まり、2013年度からは「健康寿命の延伸」を目標に掲げ、生活習慣の改善、生活習慣病の発症と重症化の予防を、国民一人一人に対して求めています。生活の質（QOL）の向上を目指した国の推進や啓発活動もあり、予防医療への関心が年々高まっています。



さて、当院の健康管理センターは病院併設型施設の特性を生かし、病気の予防から早期発見・早期治療まで、一貫した医療サービスをこれまで提供してきました。予防医療の重要度が増しているなか、病院に隣接した敷地に“ゆとりと温もり”のある快適な空間をコンセプトに、健康管理センターを増築しました。健康状態を調べるための「健診事業」、特定の病気を早期に発見するための「検診事業」、健康に関する知識や情報を提供し、予防や健康の促進に役立つアドバイスを行う「保健指導事業」など、それぞれの機能強化を図り、2025年4月から運用を開始します。“病の種”を事前に取り除き、健康で穏やかな生活を保つために、済生会富山病院・健康管理センターを定期的にご利用ください。

主なサービス内容

健診

健康状態を調べるための検査を行ないます。

法定健診	法律で定められている健診	
	特定健康診査(メタボ健診)	高齢者医療確保法(義務) 対象は40歳から74歳 該当者に対して特定保健指導を実施
	一般健康診断(定期健康診断)	労働安全衛生法(義務) 対象は労働者
総合健診	任意で実施する健診	
	生活習慣病予防健診	全国健康保険協会(協会けんぽ)
	人間ドック	健康保険組合(健保組合)
その他	後期高齢者の健康診査	高齢者医療確保法(努力義務) 対象は後期高齢者医療制度加入者

検診

特定の病気を早期に発見するための検査を行ないます。

対策型検診	集団全体の死亡率を下げるために、地方自治体などの公共機関が主体となって実施する5大がんの早期発見など、各種検診を行ないます。
	がん検診(肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん、前立腺がんなど)
	節目健診など
任意型検診	医療機関が任意(独自)で実施する検査で、受診者のニーズに合わせて、基本となるコースに追加できる各種の専門ドックやオプション検査などを取り揃えています。
	専門ドック
	オプション検査

保健指導

健康に関する知識や情報を提供し、予防や健康の促進に役立つアドバイスを行ないます。



受診勧奨

重症化予防事業の一環として、健診や検診の結果で「要精密検査」や「要治療」などの判定があった対象者に対して、医療機関を受診するように働きかけを行ないます。

健康増進啓発

地域住民および利用者を対象に、健康意識の向上のため、各種健康セミナーを開催します。

予防接種

免疫機能の強化による感染症の発症や重症化の予防、そして流行阻止のため、ワクチン接種を行ないます。

看護部 統括看護師長 黒原 直美

この度、新しい健康管理センターが病院に増設されました。

受診者の皆さんが、健診中も快適に過ごすことができる心地よい空間に生まれ変わりました。胸部レントゲン、乳腺・腹部エコー検査、マンモグラフィー検査、眼底・眼圧検査を1か所で受診することが可能となり、従来の各検査室への行き来による負担が軽減されました。

各種専門ドックでは、がん関連ドック、血管病関連ドック、脳ドックなどがあります。

午後からの健康診断・検診もありますので、胃の検査を希望されない方、午前中は仕事や家事で忙しい方、朝早いのが苦手な方、遠方にお住まいで午前中の来院が難しい方にお勧めです。

また、保健指導の必要な方には、保健師より食事や運動のアドバイスを受けることができます。その人にあった行動計画を立てて、実施状況を確認しながら生活習慣の改善をサポートしています。

健康診断・検診は、受けて安心、知って改善です。ご予約・お問合せをお待ちしております。

VOL.
5

整形外科 ～整形外科ってどんなところ？～

当院の整形外科は、4名で診療にあたっています。

2024年に519件の手術を行っています。主な手術は脊椎手術が187件、人工関節は56件、骨折の手術は203件でした。

腰椎の脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニアや腰椎すべり症などで坐骨神経痛がひどく手術になる場合、基本的に内視鏡で手術を行うようにしています。(2024年は124件でした)内視鏡手術では早い人は術後3-4日で退院可能です。症例によっては内視鏡での手術が困難な場合は背骨にスクリューを入れて固定術を行う場合もあります。(2024年は27件でした)固定術を行う場合でもここ数年は経皮的椎弓根スクリューを使用し、以前より筋肉を骨から大きく剥がさないで手術を行っています。固定術を行った場合の入院期間は、内視鏡のように数日で退院するのは困難で、短い人でも1～2週間の入院になります。内視鏡手術でも固定手術でもしっかりリハビリが必要な人は入院期間が長くなります。

関節の手術は変形がひどくなって、関節の温存治療が困難な方に対して、人工関節手術を行っています。以前は膝の人工関節の方が多かったのですが、現在は股関節の人工関節の方が多く行っています。入院期間は人工股関節では1週間ほどで、人工膝関節では2週間ほどで治療しています。

骨折の手術は高齢者の股関節周囲の骨折が圧倒的に多く、骨折部を固定する手術や人工骨頭挿入術を行っています。ほかに上腕骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、足関節の骨折などが比較的多い骨折です。

当院には回復期リハビリ病棟もあるので、リハビリに時間がかかる人はほかのリハビリ病院に転院せずに、当院で継続的にリハビリを行うことが可能です。

高齢化が進み、骨粗鬆症の人口比率が増加傾向になっているので、骨折する人が今後増加傾向になることが予想されます。骨折した患者さんが再度骨折するのを予防するために骨粗鬆症の治療も重要であり、取り組んでいます。

文責 吉田 晃



整形外科の医師(左から 藤木医員、吉田主任部長、香川部長、滝野医員)

第45回全国済生会親善ソフトボール大会

リハビリテーション科 理学療法士 瀬島 知治

令和6年11月10日に、栃木県宇都宮市で開催された「全国済生会親善ソフトボール大会」に出場しました。大会には各ブロック大会を勝ち抜いてきた6病院（山形、水戸、中和、松山、熊本、富山）と、推薦2病院（松坂、宇都宮）の計8チームが参加しました。富山病院以外は全国大会常連チームではありませんでしたが、1試合目の山形病院は1-1の引き分け（抽選5-4で惜敗）、2試合目の宇都宮病院は14-0で圧倒することができ、富山病院の強さを全国大会でアピールすることができました。来年度も全国大会に出場できるように頑張りたいと思います。



日本政策投資銀行「DBJ BCM格付」を取得

事務部 次長 前田 伸明

当院はこの度、防災力・事業継続力を評価され、日本政策投資銀行より「DBJ BCM格付」を取得しました。

「DBJ BCM格付」とは、DBJが開発した独自の評価システムにより企業の防災・事業継続対策への取り組みの優れた企業評価、選定する制度です。

令和6年9月30日に当院研修ホールにて認定書授与式が開催され、日本政策投資銀行の高橋部長より亀山院長に認定書が授与されました。



日本政策投資銀行
高橋部長(右)より
認定書を授与される
当院 亀山院長(左)

第2回「フードパントリー（食品配布会）」を開催

事務部 次長 前田 伸明

令和6年12月1日(日)第2回「フードパントリー（食品配布会）」を当院1階エントランスホールにて開催しました。ひとり親家庭を支援する社会支援事業の一環として実施したものです。当日は、亀山院長を含め、20名の職員と地域の富山東ライオンズクラブ会員の方、富山国際大学のボランティア部の学生さんの協力を得て、訪れた家族連れにお米やお菓子など、食品計100組分や衣服等を手渡しました。今回提供した衣服等は職員に呼び掛けたところ、100品以上集まりました。

昨今の物価高の影響で食品の値段も上がっており、参加された家族からは「何を買っても値段が高く、大変ありがたい」と、うれしい感想をいただきました。

また参加した職員からは、「自分も子どもがいる立場。機会があればまた、力になりたい」といった意見がありました。

イベント内では、看護師、保健師による「ハンドマッサージ」「乳がんセルフチェック」も行い、ハンドマッサージを受けた方からは「初めての経験であり、癒しの時間だった」という言葉をいただいたのが印象的でした。また、給食会社さんの協力を得て、おでん等をレストランにて提供し、子供さんから喜ばれました。

当院では、今後も定期的に実施していく予定です。



開催されたフードパントリーの様子

生活困窮者支援に関する検討会

医療福祉支援センター 中川 妙子

済生会では、ソーシャルインクルージョン(社会的に弱い立場にある人々も誰一人取り残さず、すべての人が地域社会に参加し、共に生きていくという考え方)という理念の下、様々な取り組みを行っています。その一環として、12月20日(金)当院2階研修ホールにおいて、「生活困窮者支援に関する検討会」を開催しました。地域からはケアマネージャーや看護師等22名の参加があり、当院が実施している無料低額診療事業の紹介やグループワークを行いました。グループワークには院内スタッフも参加し、「生活困窮者支援に関して困ったこと」をテーマに意見交換を行いました。近年、身寄りがない、老々介護、ひきこもり等社会的に支援が必要な患者さんが増えています。今後も地域の関係機関の皆様と連携し、支援の輪を拡げていきたいと思ひます。



グループワークにて意見交換を行う参加者たち

更生保護施設富山養得園インフルエンザ予防接種事業

医療福祉支援センター 中山 信博

済生会は生活困窮者を支援する事業「なでしこプラン」を実施しています。ホームレスやDV被害者、刑務所出所者、障害者、高齢者、在留外国人などで、医療・福祉サービスにアクセスできない人たちを対象に巡回健診や予防接種などを行うものです。

当院のなでしこプランとして、11月17日(日)亀山院長と看護師2名、医療ソーシャルワーカー2名が、更生保護施設富山養得園を訪問し、入所者10名を対象にインフルエンザの予防接種を無料で行いました。更生保護施設とは、刑務所を出所した人で身寄りがなく、住居もないなどの理由ですぐに自立が困難な人に対し、一定の期間保護し、自立に向け必要な支援を行う施設です。入所者の方からは「予防接種を受けることができて安心した。」などの感謝の言葉が聞かれ、和やかな雰囲気で行うことができました。今後も入所者の方々の健康を支える事業を展開していきます。



問診をおこなう当院 亀山院長と入所者



予防接種を行う当院看護師

世界脳卒中デー2024イベント

世界脳卒中デー運営チーム

毎年10月の1か月間は、「脳卒中月間」、そして10月29日は「世界脳卒中デー」です。日本脳卒中協会からは、脳卒中予防で伸ばす健康寿命 世界脳卒中機構からはGet active! 体を動かして脳卒中予防というメッセージが示されています。

当院でも、2024年11月1日(金)エントランスホールにおいて脳卒中デーを開催しました。テーマを「脳卒中 予防で伸ばす健康寿命」とし、「脳卒中」から大切な人を守るため、多職種(リハビリスタッフ・薬剤師・管理栄養士・看護師・MSW)がポスターを作成しました。内容は、早期の受診、薬剤情報、栄養指導・介護相談などです。

多職種が企画したブースでは、リハビリスタッフによる「舌圧測定」、管理栄養士による「栄養相談」、看護師による「ハンドマッサージ・血圧測定」、MSWによる「介護相談」を催し、患者さんやご家族に啓発活動を行いました。人気のブースは「舌圧測定」で多くの方に体験していただきました。今回の経験を活かし、今後も啓発活動を続けていきます。

世界糖尿病デー2024イベント

内科部長 伊藤 みか

11月14日は世界糖尿病デーです。糖尿病の予防や治療継続の重要性について皆さんに知っていただく重要な機会となっています。当院では、11月15日に「世界糖尿病デー2024」のイベントを行いました。イベントでは、血糖測定、フットケア、運動体験(エルゴメーター)、食事の相談、薬の相談、医師の相談コーナーを設けました。また糖尿病に関するポスターを1週間展示しました。イベントには約100名が参加され、約90%の方がイベントに対して「大変良かった」「よかった」と感想を寄せてくださいました。中でも、血糖測定に参加された方が最も多く(53名)、「血糖値を測りたかったのでよかった」とおっしゃっていただきました。次いで食事の相談をされた方が多く、食事療法のポイントを示したポスターもわかりやすかった、という感想が寄せられました。参加された皆さんのご意見を参考に、来年度もイベントを計画してまいります。



フットケアの様子



医師による相談コーナー



糖尿病に関するポスター展示

学生指導に 関して

看護部

笹倉 博恵

済生会富山病院では、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、事務部の実習生を受け入れています。

実習生を指導することは、当院の職員にとっても自分の考えや仕事の仕方を整理し、患者さんに対しても分かりやすく伝えるというトレーニングになり、より多くのメリットがあると思われます。

そこで、今回は一番実習生の人数が多い「看護学生の受け入れ」について紹介します。

済生会富山病院では、大学、短大、専門学校の看護学生の実習を受け入れています。

看護学生にとって実習は、看護師になるために欠かせない大切な学びの一つです。看護学生は入院中の患者さんやご家族の皆さんと関わりながら、コミュニケーションスキルや、病態について学び、多くの情報から自分たちが支援すべき看護上の問題を見つけ出すスキルを学んでいます。実習は患者さんや家族の皆さんと直接接することができ、話ができる貴重な機会です。

また、済生会富山病院は訪問看護ステーションを併設しているため、病気を持ちながら地域で生活する方々の支援にも力を入れています。病院外での看護師の役割も訪問看護ステーションでの実習を通じて指導をしています。地域の方々が、安心して住み慣れた場所で生活していくためにも、専門的知識を持った看護師の育成は、済生会富山病院の大きな役割の一つだと考えています。

実習では、看護実践や看護技術を学び、患者さんや家族の気持ちに寄り添うことができる看護師を目指して、日々頑張っています。

地域の皆様には、済生会富山病院の役割を理解いただき、看護師の成長の力になっていただきたいと思います。

住み慣れた地域で少しでも長く生活ができるよう済生会富山病院は一丸となってサポートできるよう努めていきたいと思ひます。

済生会富山病院では 無料低額診療事業を 実施しています

無料低額診療事業とは、医療費を

減額 免除

できる制度です。



生計困難な方が経済的理由により、
必要な医療を受ける機会を制限されることのないよう、
無料・低額な料金で治療を受けていただく制度です。



例えば

このような時にご相談ください

- 病気や障害、失業などで収入がなくなり、医療費の支払いが困難な方
- 「医療費が払えない」と、治療を受けずに悩んでいる方

利用方法

利用にあたっては、一定の条件がありますので、
まずは患者相談窓口へご相談ください。
お問い合わせはお電話でもお受けいたします。

相談窓口

患者相談窓口(1階エントランスホール3番)
TEL 076-437-1111(代) 月～金 8:30～17:30



ミッション(使命)

患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供

ビジョン(将来像)

- 地域住民の健康寿命の延伸
- 健康障害を抱える人々の生活の質の向上
- 働きがいのある職場環境の形成

バリュー(価値観)

- 医療の質向上をめざすこと
- 地域に貢献すること
- 自己研鑽と育成に努めること
- 健全経営をめざすこと

患者さんの権利と責務

私たちは、医療行為が患者さんと医療者との信頼関係の上に成り立つものであり、医療は患者さん中心であることを深く認識して、ここに「患者さんの権利と責務」を定めます。



【患者さんの権利】

- 個人としてその人格を尊重される権利
- 質の高い医療を公平に受ける権利
- 十分な情報を知り、説明を受ける権利
- 選択の自由と自己決定する権利
- プライバシーが守られる権利

【患者さんの責務】

- 自身の情報を正しく提供する責務
- 診療行為に協力する責務
- 療養に専念する責務
- マナーや規則を守る責務
- 医療費を支払う責務



済生会富山病院報
くすのきだより

発行者
富山県済生会富山病院
院長 亀山 智樹

【編集委員会】

久保道也	宮坂歩夢	河瀬晶美
浜松めぐみ	作田甚太郎	柴原葉奈
平野奈央子	前田伸明	
西川和良	小島吉保	
上田周平	小笠原亜海	

令和6年度後期
ご寄付のお礼

個人の方からご寄付いただきました。
貴重なご厚志ありがとうございました。